

施策名	科学研究費助成事業（基盤的施策）
担当府省	文部科学省
施策の目標	人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させ、重厚で多様な知的蓄積を形成し、革新的技術の基盤となる優れた研究成果の増加・蓄積に向けた環境整備を進める。平成 24 年度においては、第 4 期科学技術基本計画で掲げられた、新規採択率 30%の確保や、基金化による研究の成果・効果を検証しつつ必要な取組みを推進するため、「若手研究（A）」の複数年度研究費の改革（基金化）や新規採択率の向上等を通じて、次世代を支える若手の支援や研究フロンティアの開拓を図る。
予算要求額等の合計	平成 24 年度 2,568 億円（平成 23 年度 2,633 億円）
実施期間	恒常的に実施
【進捗の状況について】 ○本事業は、ここ数年間の厳しい諸情勢の下においても、その担う役割の重要性や研究者の強い要望等を背景に、規模の拡大と基金化という重要な改革を実現してきた。 【改善の状況について】 ○本年度から一部の研究種目の基金化による運用が開始されたが、現場の研究者からその有効性について非常にポジティブな反応が寄せられており、高く評価できる。 【今後の取組に向けた所見】 ○本年度からの一部基金化による研究の効率や成果・向上等の効果が期待されており、これら基金についての成果・効果を検証しつつ、研究費の効率的・効果的な執行について更なる検討を行い、他の研究種目についても基金化を図り、研究のパフォーマンスの向上に向けた取組を推進すべきである。 ○狭い細目からの脱却や、研究成果の客観的な検証、それを踏まえた広報活動の充実などの改革に引き続き取り組むことが必要である。	

○基金化における運用状況の検証や、本資金制度のこれまでの実績評価を踏まえて、現行の運用の在り方について、世界の研究資金の在り方を参考にしつつ再点検を行うべきである。またその際は、論文データにおいて、基礎研究で日本の競争相手になる国が急速に伸びてきているなど、国際的な状況に照らした検証がなされることが重要である。